

神奈川県立生田高等学校 令和8年度第1回SSH運営指導委員会 議事録

本校の運営指導委員会を次のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立生田高等学校SSH運営指導委員会
開催日時	令和8年7月10日（金）15時30分～17時00分
開催場所	神奈川県立生田高等学校 会議室
出席者 （役職名）	運営指導委員 川上 忠重（法政大学理工学部 教授） 徳地 直子（京都大学フィールド科学教育研究センター 教授） 森 朋子（桐蔭横浜大学 学長） 西野 真木（宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙科学研究所 主任研究開発員） 藤澤 弘幸（東京農業大学農学部 農学科長） 松岡 直之（明治大学理工学部 教授） 福田 光伸（サンケン電気株式会社 上級執行役員）※所用のため欠席 管理機関 山下 真義（神奈川県教育委員会 教育局指導部 高校教育課 教育課程指導 G GL 兼指導主事） 西川 陽平（神奈川県教育委員会 教育局指導部 高校教育課 教育課程指導 G 指導主事） 本校職員 野田 麻由美（校長） 仲神 博（副校長） 眞中 恭子（教頭）※所用のため欠席 川名 慶（総括教諭・学習支援グループリーダー） 根津 玲子（総括教諭・学習支援グループリーダー）※所用のため欠席 橋本 未来（総括教諭・進路支援グループリーダー） 伊藤 裕（総括教諭・研究開発グループリーダー） 牧野 篤敬（総括教諭・管理運営グループリーダー） 鯨吉 剛（総括教諭・生徒活動支援グループリーダー） 石原 和彦（総括教諭・生活支援グループリーダー） 曾根 健吾（教諭・研究開発グループ） 森安 翔（教諭・研究開発グループ（記録）） 秋田 玲央（教諭・研究開発グループ） 藤田 光樹（教諭・研究開発グループ） 生方 ももこ（教諭・研究開発グループ） 村本 晶子（SSH事務支援員）
問合せ先	担当者名 神奈川県立生田高等学校 研究開発グループ 伊藤 裕 電話番号 044-977-3800 F A X 番号 044-976-9398

審議（会議）経過	1 開会（司会：神奈川県教育委員会 西川指導主事） ・神奈川県教育委員会山下G L兼指導主事より挨拶 ・校長挨拶 2 委員・教職員・教育局紹介 ・司会より委員の紹介 ・副校長より教職員の紹介 ・司会より教育局の紹介 3 委員長選出 ・委員の互選より、桐蔭横浜大学学長の森委員を委員長とすることの了承を得た。 4 研究協議（司会：SSH運営指導委員会 森委員長） （1）I期全体の取組について ・資料「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業・研究開発の概要」に基づき、研究開発グループ曾根教諭より説明を行った。 （委員より） ・教員にとって探究マスタールブリックを用いるメリットとして、教員間の評価基準の共有を挙げているが、その考え方にズレが生じたときはどうするか。 →まずは教科ごとで評価に関する議論のきっかけになればと思っている。探究マスタールブリックの考えを取り入れた授業実践を各教科で検討し、6月には国語科と数学科で研究授業を実施した。 ・令和6年度まで掲げていた「能力伸長・生田メソッド」とはどのようなものか。 →文理融合の精神やICT機器の利活用の推進などである。今でもその指針の一部は継承している。 ・生徒はどのように「探究マスタールブリック」の内容を理解していくのか。 →1年生は初回の理数探究基礎の授業で配付し、それぞれの資質・能力について自己評価をさせた。2、3年生は授業内で取り入れたり、学校ホームページ、探究のポータルサイトに掲載したりするなど常に確認ができるようにしている。 （2）令和8年度の取組について ・資料「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業・研究開発の概要」に基づき、研究開発グループ曾根教諭より説明を行った。 （委員より） ・生徒の研究テーマの設定についてはどのような指導をしているのか。 →興味関心のあるテーマに近い生徒同士でグループを組み、「なぜ興味関心を
----------	---

	もったのか」を共有し、「問い」の設定の時間を確保した。テーマごとに学年の教員が付いており、研究テーマについて意見の交換やアドバイスなどを行った。 ・さまざまな取組があるが、取組の理解や教員間の意思疎通についてはどのように進めていくのか。 →教員研修会で「探究で学んだ見方・考え方を、教科等横断的な考えを基にほかの科目に活かしていく考え」を共有している。 ・「ショーケース」について詳しく説明してほしい。 →「資質・能力の9つの力のレーダーチャート」を用いて、自分の現状の力を自己分析したり、3年間の成長を可視化したりするもの。そのフィードバックの方法については検討中である。 ・探究マスタールーブリックは間接評価と直接評価のどちらになるのか。 →どちらも目指している。生徒自身は自己評価の尺度として、教員は直接評価として使うことを想定している。 ・理数探究基礎・理数探究はクラスごとに行っているのか。 →理数探究基礎はクラス単位で行っている。 ・ほかのクラスの考えなどを聞ける機会があればよいと思う。 →現状ではそういった機会はほとんどない。今後検討したい。 ・探究推進体制の評価システムの整備についてはどのように考えているのか。 →現状は研究途中。どれだけ授業力が向上したと言えるかといった指標などの設定などは今後の検討課題である。 ・明治大学との高大連携プログラムの内容は数学系・理科系以外のものもあるのか。 →農学部・理工学部のあるキャンパスのため8割は理系分野である。理系と言っても社会的な理系テーマも多く、文理融合のようなテーマの講義をさせていただいている。 (3) 質疑・応答、指導・助言 ・探究テーマについて、生徒に自由に決めさせると深い内容までの指導ができないと思う。教員の指導ができる範囲で選択肢を与え、選ばせる方法でもよいのではないか。 →他のSSH指定校に視察に行った際にも、生徒の主体性を尊重し、自由に考え決めさせることが多かった。今年の探究テーマや取組の状況、成果などを見ながら、来年度以降の方法については検討していく。 ・学校近くの川や神社などを知るフィールドワークなどの機会などを作れば、探究の第一歩になるのではないか。 →1年生の理数探究基礎で学校周辺のフィールドワークの実施を構想している。
--	---

	・デジタルサイネージ等を活用して生徒に対しての情報発信をしっかりとしていただきたい。また、生田高校のマスコットキャラクターもなるべく早く作ってほしい。 ・生徒が自分で成長した実感がなければ自信につながらないと思うので、いろいろな人に発表を聞いてもらうなどの「多面的評価」が必要だと思う。 ・探究における生成A I 活用のガイドラインを定めることも必要ではないか。 5 閉会 ・神奈川県教育委員会山下G L 兼指導主事より挨拶
--	---